

中央大学のエンブレムデザイン

中央大学では、ブランドマークである「C」マークとは別に、エンブレムが用いられている。エンブレムは、本学を象徴するデザインとして、多摩キャンパスのグローバル館やFOREST GATEWAY CHUO、後楽園キャンパス、茗荷谷キャンパス、駿河台キャンパスなどの入口に設置されている。このエンブレムが学生服の徽章（バッジ）を基にしていること、そのデザインにどのような意図が込められているかをご存知だろうか。ここでは、本学のエンブレムについて、作成された経緯やデザインの意図を紹介していきたい。



中央大学エンブレム

1. 学生自治会統一徽章の制定（1954年）

本学では、1903年以来、制服と制帽を着用していた（「制服・制帽のはじまり」『タイムトラベル中大125』）。戦後になると、制服・制帽に付ける徽章（バッジ）が流行し、個人や団体ごとに異なる徽章を使用するようになる。1946年に設立された学生自治会では、多種多様なバッジが乱立している状況を問題視し、中央大学生としての統一徽章を制定する。それが1954年に制定された学生自治会統一徽章である。



学生自治会統一徽章

学生自治会統一徽章のデザインは、以下のように紹介されている。

.....
図案は広く一般学生から募集し今般制定をみたバッジは百合の花と鵬（おおとり）の翼との組合せをバッグに、本学の徽章を彫出したものである。百合の花は白門を、鵬の翼は天空を翔ける自由を象徴し、自治会ではこれ（に）によって、今迄汎濫したバッジを一掃する方針でいる。

（『中央大学新聞』第354号、1954年1月）

学生の自由を象徴する鵬の翼に白門を象徴する百合の花を組み合わせた本学の学生自治会らしいデザインである。

こうして学生自治会の統一徽章は出来上がったが、大学の公認を得ることはできなかった。そのため、大学が公認する統一徽章の制定へと動いていくことになる。

2. 中央大学学生記章の制定（1955年）

大学が公認する統一徽章の制定に向けて学生側と大学側で協議が重ねられ、翌1955年9月に中央大学学生記章が制定されることになった。これが現在のエンブレムデザインの基となる。



中央大学学生記章

中央大学学生記章のデザインは、以下のように紹介されている。

.....
全体の円形は地球・横ワクは世界を結ぶ文化の帯、ペンは学術・松は本学の学風とする質実剛健、横ワク内の花葵は本学の学風とする家族的情味を、それぞれ象徴しております。

（『学園生活』1959年）

全体の円は「地球」、中心部の横枠は「世界を結ぶ文化の帯」、校章を囲むペンは「学術」、背景の左右に伸びる「松」は学風の1つである「質実剛健」、横枠内の「花葵」はもう1つの学風である「家族的情味」がデザインされている。本学では、1914年以降「質実剛健」が学風とされており、これに1938年から「自主的の信念」と「家族的情味」が加わった（「質実剛健」の校風・「自主的の信念」と「家族的情味」の登場）『タイムトラベル中大125』。大学の公認する統一徽章を制定するにあたり、当時の学風が「松」と「花葵」としてデザインに盛り込まれたものと考えられる。

現在の中央大学エンブレムは、こうしたデザインの歴史が引き継がれている。各キャンパスのエンブレムをご覧になる際には、デザインにぜひ注目していただきたい。